

# アイデア技術形に

高専と言えばイメージの強い「全国高専ロボコン」に向けて活動している。

昨年は2チームのうち一つが地方大会を突破し、8年ぶりに全国大会へ進んだ。出場した自作ロボ2台は学校のシヨケースに飾られている。毎年春に大会のルールやテーマが発表され、秋の地方大会に向けて製作がスタートする。

今回の競技内容はロボットで洗濯物を物干しざおに干すことだ。大会で多くの学校は



茨城高専ロボット部

ながぬま せいせい  
永沼 光星さん



ロボのアームでつかんだ洗濯物を直接ざおに干す方法だったが、茨城高専チームは風力で衣類を飛ばして、ざおに掛けるユニークな手法を

取った。これが地方大会で評価され、全国大会に駒を進めた。

3年生で部長の永沼光星さん(17)は「きれいになびいているCMの洗濯物をイメージした」と言い、風力のアイデアがひらめいた。ロボットの装飾にはこだわらない他校もある中、「お客さんに楽しんでもらいたい」と自作ロボは「風を吹かせるてんぐ」をモチーフにした。

「アイデアと技術が合わさって形になった時が一番うれしい」と話す。昨年はものづくりの極意を存分に味わえた。

(随時掲載)

昨年の全国大会に出場したロボット2台と永沼光星さん(ひたちなか市)